３　校内研修計画

（１）研究主題

主体的に学び合い　学ぶ喜びを感じる児童の育成
～国語科の授業を通して～

（２）主題設定の理由

①教育の今日的課題から

これからの時代を担う子供たちには、出来合いの答えのない課題に対応する力が求められ、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善が不可欠である。また、「熊本の学び推進プラン」には、伝える力の定着に向けた指導の不十分さや受け身の子供たちの姿勢をうかがわせる現状を課題の一つとしている。そこで、「子供が問いを発し、課題に主体的に立ち向かい、学びを深める」授業づくりを推進し、子供たちの学ぶ意欲を高め「学びの主体」として育てることが大切であると考えられる。

②学校教育目標から

本校の教育目標は「笑顔・やさしさ・やる気がいっぱい　夢に向かい　郷土を愛する葛小っ子」である。『「考動」: 気づき　考え　行動する＝「なりたい自分」になるために』をスローガンに掲げ、学びの心を持つ子供を育てることを目標としている。また、子供たちの実態から重点的に取り組む育てたい資質能力を「学びに向かう力」「見通す力」「思いやりの心」としている。校内研修において、「主体的に学び合い　学ぶ喜びを感じる児童の育成」を研究実践していくことにより、子供たちに育てたい資質能力を高めていくことは、本校教育目標の実現に深く関わっており、その根幹を担うと考える。

③本校の実態から

本校は、現在３・４年生、５・６年生の４つの学年において複式学級での学習指導を行っている。そのため、単式学級であっても複式学級での学習を意識した学習の進め方を身に付けておく必要がある。複式学級の学習指導においては、間接指導の際、子供たちの主体的な学びが必要になる。本校の子供たちの実態としては、複式学習における学習過程を理解し、自分たちで主体的に学習を進めることができるようになった。しかし、昨年度から取り組んでいる国語科においては、読解力や読書活動の推進などに課題を感じている。

また、昨年度の県（市）学力・学習状況調査の正答率は、１年生と６年生の国語が目標値をやや下回ったが、そのほかの学年では県平均値を上回った。しかし、国語の「話すこと・聞くこと」と「読むこと」が他領域と比べると課題が見られた。そこで、本年度は本主題を設定し、昨年度までの成果と課題を分析し、子供たちの力をさらに高めていきたいと考えた。

（３）研究主題のとらえ方

①「主体的に学び合う児童の姿」とは、課題解決に向かって学び方を習得し、自分で考え、互いの考えを伝え合い、学び合うことで、考えを広げたり深めたりすることができることと捉えた。

②「学ぶ喜びを感じる児童の姿」とは、互いの考えを伝え合い、学び合ったことをふり返り、「わかった」「できた」という実感や達成感、「もっとやってみよう」「次の学習や他教科、生活に生かそう」という学習意欲につなげることができることと捉えた。

（４）研究の仮説と視点

仮説	視点
仮説１ 児童の視点に立って単元を構成し、学習課題や学習活動の工夫を行えば、主体的に学び合い、学ぶ喜びを感じられる児童が育つだろう。	（１）児童の視点に立った単元デザインの工夫 ○児童の実態把握（既習事項の定着、生活経験など） ○導入の工夫 ○単元のゴールの設定の工夫 ○学習や生活につながる「ふりかえり」の充実 （２）学習課題や学習活動の工夫 ○単元のゴールにつながる学習課題の設定 ○「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実
仮説２ 学習環境を整え、指導方法を工夫すれば、主体的に学び合う児童が育つだろう。	（１）学習環境を整える工夫 ○支持的風土づくり（人権教育） ○基礎基本の定着 ○読書活動の推進 （２）指導方法の工夫 ○国語の授業デザインの工夫 ○複式学習指導方法の工夫 ○ICT 活用

（５）研究仮説の検証方法

① 仮説検証授業において（授業研究部）【学級担任は年に一度研究授業を行う】

・仮説を中心にした協議（事後研はワークショップ形式）

・「芦北管内統一事項（授業づくり）」を基に作成した「葛渡小版授業づくり」の活用

・教師の発問による児童の言動や考えの変容

② 日常的な取組において（日常活動部）

・支持的風土づくりを土台とした学級経営【各担任】

・学習環境の整備（「学びの基礎基本」「学習ガイド」「ノートの書き方」）【全職員】

・ICT 活用【各担任】

・基礎基本の定着（漢字・計算大会、コグトレ、放課後補充教室、学級トーク）【全職員】

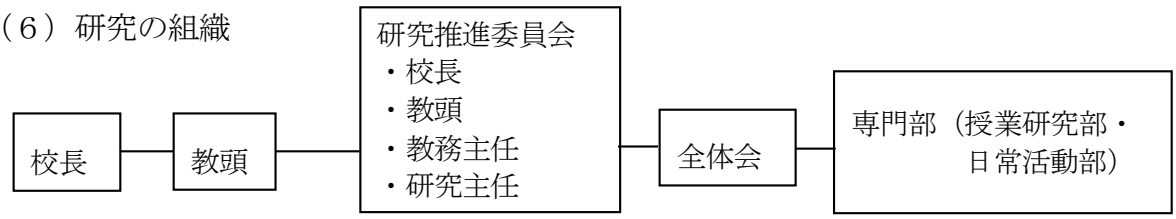
・水俣市での取組（提言書１－③、e ライブラリの活用、作成教材の活用）【全職員】

・家庭学習の充実（「家庭学習の手引き」「家庭学習 POINT５」（芦北管内統一事項を本校版に作成したもの）の活用）【各担任】

・読書活動の推進【全職員、読書活動推進員との連携】

③ その他

・県（市）学力・学習状況調査、全国学力学習状況調査の結果分析と対策問題（学力向上委員会作成）の年間を通した活用【全職員】

・研究に関わる児童や教職員へのアンケートの実施と結果分析（６月、１１月）【全職員】

（６）研究の組織